

雨水市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL : 03-3611-0573 FAX : 03-3611-0574

H.P : <http://www.skywater.jp/>e-mail : office@skywater.jp

あなたも実行委員会に参加しませんか

— '05年 雨水東京国際会議開催に向けて

21世紀の水危機の切り札

今、世界で12億人が安全な飲み水が得られていないといわれています。今後、開発途上国を中心とする人口のさらなる増加で、状況はさらに悪化するおそれがあります。世界の人口の急増は食料戦争や水戦争をも引き起こすかもしれません。また、急速な都市化と過度の人口集中によって、世界の多くの都市で深刻な水不足と洪水が懸念されています。

こうしたなかで、先般3月末に韓国で開催された国連と環境閣僚の会合でも水の総合管理対策として雨水の有効活用の推進が打ち出されたように、今、世界の水危機の切り札として、雨水が注目されています。

大きく進展した
雨水利用の取り組み

墨田区で雨水利用東京国際会議が開催されてから、今年で10年を迎えます。この間、私たちは、「やってみよう雨水利用」の英語、韓国語およびポルトガル語など8カ国語の翻訳・出版、国連と墨田区の協働による雨水利用の英文パンフレットの出版、バングラデシュにおけるヒ素汚染地下水対策としての雨水の有効活用の支援、「雨の事典」の出版、雨水セミナーの開催や雨水利用のデータベース化等、国内外で雨水利用の推進において数多くの成果をあげてきました。

近年では、民間の雨水利用に指導や助成する自治体も増え、雨水利用システムを導入するビルが急速に増えてきています。雨水利用の事業者

目次

- 2 P: 雨水国際会議準備会レポート
- 3 P: 第10回定期総会(6/20)
- 4 P: 今年もバングラデシュへ出かけてきます
- ・関西でも雨水利用技術者セミナーを
- 5 P: 風コーナー・日独雨水利用ネットワーク会議に参加して
- ・新会員紹介
- ・探検隊と田植えを
- ・地域情報誌に執筆
- ・とっておき...「かさはパラボラアンテナ」
- 6 P: 雨水東京国際会議プレ会議(8/7)
- ・雨が印象的な小説、知りませんか?
- ・「グレートジャーニー」
- 関野吉晴講演会(6/26)



の会も誕生しさまざまな雨水利用機材も開発されるようになりました。

雨水を活かすことが当たり前の社会へ

しかし、雨水を溜めて活用することが、まだ社会の常識にはなっていません。そうなるには、意識ある人達が雨水利用を推進していくことはもちろんですが、これらの活動を社会の仕組みにしていくもう一段階高い取り組みが必要です。すなわち、昨年の世界水フォーラムで提起された雨水利用に関する産官学民のネットワーク機構とその活動の拠点の整備が急務といえるのではないのでしょうか。

雨水国際会議の準備会、開かれる

こうしたなかで、2004年2月、私たちと10年前に共に雨水利用東京国際会議を開催した墨田区が、2005年雨水東京国際会議の開催を決定しました。雨水市民の会幹事会では、この国際会議を、雨水利用を社会化していく絶好の機会と捉え、早速、雨水利用を社会にいかにかに根づかせるかをテーマにして開かれた「第3回世界水フォーラム雨水利用 in 京都」(昨年の3月に開催)の参加団体などに呼びかけ、4月24日(土)に雨水東京国際会議実行委員会の準備会を開きました。

同準備会では、当面の取り組みとして、今後さらに雨水や水などの関係団体に呼びかけ、墨田区とともに、6月20日(土)に正式な実行委員会を立ち上げること、また、問題意識の共有化とメインテーマを絞り込み、企画を練り上げていくために、今年の8月7日(土)にプレ会議を開くことが決まりました。

あなたも実行委員になりませんか

2005年雨水東京国際会議では、21世紀における水危機打開に向けた雨水利用の課題を展望するとともに、この会議を契機に、昨年の世界水フォーラムで提起された、雨水利用に関する産官学民のネットワーク機構とその拠点の整備を図っていきたいと思います。

6月20日(日)に発足する雨水東京国際会議の実行委員会に雨水市民の会会員の英知をここに結集し、会議を成功させていきたいと思います。前回の国際会議に参加しなかった方でも、ぜひ実行委員に加わりませんか。

東京雨水国際会議第1回実行委員会

日時：6月20日(日) 午後2時～

場所：雨水資料室

(すみだ環境ふれあい館内)

議題：

雨水東京国際会議実行委員会組織

と運営方針

雨水東京国際会議実行委員会予算

実行委員会事務局

今後のスケジュール...プレ会議など

その他

雨水東京国際会議準備会レポート

準備会は、雨水資料室で4月24日(土)に開かれました。沖縄、大阪、京都、愛知など全国各地から、雨水利用の市民団体、気象キャスターネットワーク、雨水利用事業者の会、建築学会および日本下水文化研究会などの関係者約40人が参加しました。準備会では、それぞれの団体が活動の状況と国際会議へ向けた抱負などを述べた後、会議で取り上げるべきテーマや実行委員会組織、今後のスケジュールなどについて意見交換が行われました。

雨水東京国際会議のメインテーマをどうするかについては、各団体が持ち帰り、それぞれで検討して、雨水市民の会に集約し、最終的には、今年の8月のプレ会議で決めていくことになりました。また、雨水利用の産官学民のネットワーク機構づくりについては、会議本番までに、実行委員会のなかにプロジェクトを作って検討していくことになりました。また実行委員会組織体制については、市民参加に十分配慮するよう区に求めていくことになりました。【右写真】 (高橋朝子)

2004年度雨水市民の会第10回定期総会に 参加しましょう

昨年度は、バンラデシュのスカイウォータープロジェクトの活動、ドイツfbr理事のクラウス氏との交流会、B FURUプロジェクトでは韓国で雨水資料館がオープン等、国際的ネットワークの構築に成果がありました。また、雨と文芸チームやあまみず公開セミナーでは、雨と日本人と文化との関

わりを探る活動も行われました。

今年度はなんと言っても来年の8月の国際会議にむけた準備の年です。私たちの活動をもう一段ステップアップしていくために、それぞれの英知を持ち寄り、総会を成功させていきましょう。

第10回雨水市民の会 定期総会

日時：6月20日(日) 午前10時～

場所：雨水資料室

(すみだ環境ふれあい館内)

墨田区文花1-32-9(地図参照)

電話 03-3611-6355

内容： 2003年度活動報告・決算
2004年度活動方針・予算
雨水東京国際会議について
その他

左記の雨水東京国際会議実行委員会と同日です。



雨水資料室(すみだ環境ふれあい館内)
交通：東武亀戸線「おむらい駅」徒歩10分
JR総武線「亀戸駅」徒歩20分

雨水東京国際会議準備会には、雨に関わる人たちが全国から集まり、それぞれ熱い思いが語られました。

‘04.4.24(日)



今年もバングラデシュへ出かけてきます

今年も7月2日から8日にかけて、村瀬事務局長、佐藤清さん、徳永暢男さんと4名でバングラデシュに出かけます。

この事業もすでに満5年になろうとしています。昨年は、地元の雨水利用NGOである「NGOフォーラム」との協働による竹製集水キットの

普及事業が決まりました。今回の再訪は、この事業の進捗対応を確認するとともに、これを持続的な事業にしていくための打ち合わせ及び2005年雨水東京国際会議へのNGOフォーラム招待が目的です。予算は、2005年の地球環境基金を活用します。(スカイウォータープロジェクト 今関久和)



材料は現地調達。竹の樋の作り方を教える徳永さん。(2003年7月・ファリドプル孤児院にて)



4年前、当会が小さなタンクを寄贈。この孤児院において本格的な雨水利用システムが導入された。(2003年7月)

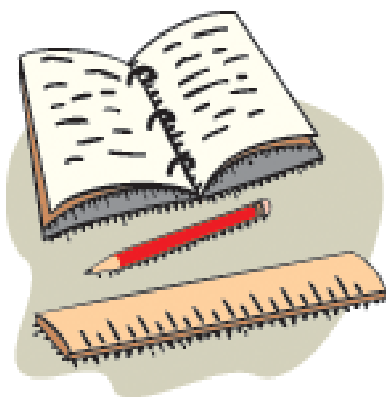
関西でも雨水利用技術者セミナーを

関西雨水市民の会 会長 水野育成さん

この度、私たちの会の名称「関西雨水利用を進める市民の会」を「関西雨水市民の会」に改称いたしました。

当会は平成9年8月1日発足以来、「雨水」に関する勉強会を開催してきましたが、所謂「勉強会」

の域を出る事が出来ずにおりました。そんななか、昨年3月の「第3回世界水フォーラム」に参加し、雨水利用に対する関心が高ま



り、当会にも問い合わせや、講演依頼が入るようになり、ようやく情報発信が出来るようになり始めたところです。

かねてから、雨水利用を取り入れた「まちづくり」や「家づくり」を進めるには、設計者や建築家の関心を高め「雨水利用の専門家」を多く派出することだと考えておりましたところ、折しも、東京の「雨水利用技術者セミナー」開催に刺激を受け、先日の理事会で取り敢えず、開催日を決めてしまおうと、10月15日(金)に決定しました。これからの準備が大変と思いますが、今後の活動の原動力になるよう、全力をあげて取り組みますので、ご協力をお願いします。企画の詳細につきましては、決定次第ご通知いたします。



日独雨水利用ネットワーク 会議に参加して

新倉まりこさん(学生会員)

2月7日(土)に墨田区の国際ファッションセンターで、ドイツの雨水利用技術者集団 f b r 理事のケーニッヒさんからお話を伺いました。スライドを交えながら、ドイツの雨水利用法について詳細にそして分かりやすく説明を受けました。質疑応答の場面では、ベルリン市の雨水の下水道料金のこと、雨水の水質問題などについて意見がありました。有意義な時間を過ごせたと共に、雨水市民の会にとって素晴らしい国際交流が実現したのではないかと思います。

その後の懇親会では、ケーニッヒさんとお話をする機会もあり、私達のたどたどしい英語を聞いて下さいました。懇親会の終了時には、光栄にもケーニッヒさんから直接 f b r のバッジを付けていただき、恐縮するばかりでした。日本とドイツの雨水に関する合意と協力が実現した、このような場に立ち会うことができ大変嬉しく思います。

とっておきの雨の話

かさはパラボラアンテナ

かさを利用したソーラークッカーを見ていてふと思う。パラボラアンテナみたいだな。だから雨音が、集まってよく聞こえるのかな。布地の放物線、材質、張り具合などによっても雨音は違うんだろうな。いつも使っているビニールかさの雨音

は、いかにもビニールって感じがする。蛇の目かさだとどんなだろう。美しい雨音だといいな。

(中山義光)



新会員紹介

テレビで「こんばんわ」

気象キャスター 平井信行さん

平井信行さんは、気象予報士で、NHKのお天気キャスターをしています。天気予報では、晴れが「いい天気」、雨が「わるい天気」と扱われやすい気がしますが、平井さんはそういうふうには言いません。農家など、雨が仕事に欠かせない人々もいるからです。今年3月にNPO法人気象キャスターネットワークを立ち上げ、気象キャスターの質の向上を目指しています。

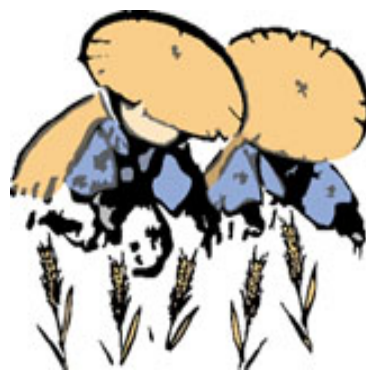
「来年8月の雨水の国際会議に向けて、気象キャスターネットワークも協力していきたい」と力強いお言葉。雨水利用のこと、雨の文化のことなど、天気予報の中で、「明日の天気」にプラスした内容を伝えていきたいとのこと。みなさんのアイデアをお聞かせください。(笹岡京子インタビュー)

探検隊と田植えを一緒にしませんか

雨水探検隊 隊長 伊藤林さん

雨水探検隊では、今年も秋田県大潟村の阿部さんからいただいた稲の苗を墨田の学校に配っています。また、千葉縣市川市の北方(ボッケ)の田

んぼを借り、探検隊の子どもたちと6月12日(土)に、田植えをします。参加希望の方は、直接隊長の伊藤さんまで連絡ください(電話03-3623-1695)。秋には収穫



地域情報誌に執筆

初山正行さん

いかなる地球環境問題も水問題にたどり着く。そのなかでも、私は雨を中心とする水環境と暮らしとの関わりについて興味があり、講演や執筆などで活動しています。現在、江戸川タイムス「環境シリーズ」に執筆しています。

2005年雨水東京国際会議キックオフ

8月7日(土) プレ会議を成功させましょう

準備会では、来年の国際会議の企画を練り上げるに当たって、実行委員の共通の問題意識を共有化するために、右記の要領で講演会を開催することを決めました。

日時：8月7日(土) 午後1時30分～2時30分

会場：墨田区役所 13階131会議室

講師：高橋裕 東京大学名誉教授・世界水会議理事

テーマ：「地球の水が危ない - 雨水に期待する - 」

資料代：500円

なお、基調講演後、実行委員会と幹事会を行います。

雨が印象的な小説、知りませんか？

雨と文芸チームプロジェクト

雨と文芸チームでは、データベース「雨の図書館」第1号として、小説・随筆編を編集中です。現在は、雨の題名がついているものを収集しています。次号では、続編として、題名に「雨」はないけれど、雨が印象的に扱われている小説や随筆も取り上げる予定です。

雨と文芸チームの人員は、ただ今10人。膨大な

小説の中身を調べるには少々人手不足です。「これは！」と思う小説などがありましたら、事務局まで、ファックスでお知らせください。どうぞご協力を！



「グレートジャーニー」 関野吉晴講演会

今年の2月、雨水資料室のある「すみだ環境ふれあい館」2階に、「関野吉晴探検資料室」がオープンしました。墨田区出身の探検家である関野さんが南米の最南端からアラスカ、シベリア、アジアそしてアフリカまでを踏破した「グレートジャーニー・人類5万キロ」の足跡が展示されています。「グレートジャーニー」については、テレビでご覧になった方も多いかと思います。この探検資料室の開設を記念

して、講演会が開かれることになりました。関野さんから直接お話を聞けるこの機会をどうぞお見逃しなく。

日時：6月26日(土) 午後1時30分～3時30分

会場：すみだリバーサイドホール(墨田区役所)

入場：無料、先着順

テーマ：グレートジャーニー・人類5万キロの旅

事務局より

2月6日に開催した雨水利用技術者セミナーは、定員をオーバーしたためお断りをした方も多くありました。そのテキストの在庫が若干あり、5000円でお分けできます。希望の方は、事務局へファックスまたは電子メールでお問い合わせください。

4月下旬、平成16年度地球環境基金申請の結果が発表され、「雨水ネットワークの機構整備」とし

て320万円がつかまりました。

辰濃会長と村瀬事務局長が「雨を活かす ためることから始める」(岩波アクティブ新書・777円)を出版しました。雨の自然観、雨水活用など分かりやすいと好評です。ぜひご一読を。

広報部より

雨水利用技術者セミナー、第4回あまみず公開セミナーの報告は、次号に掲載します。